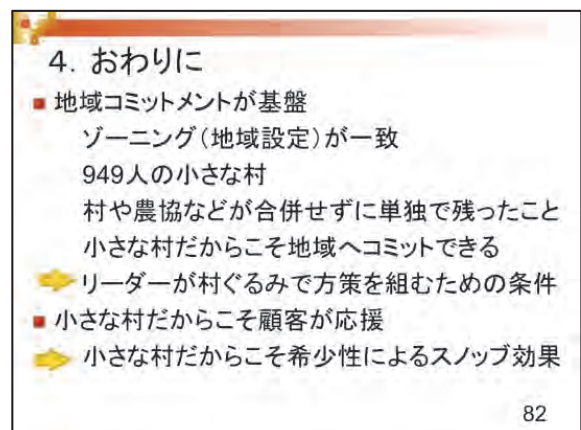
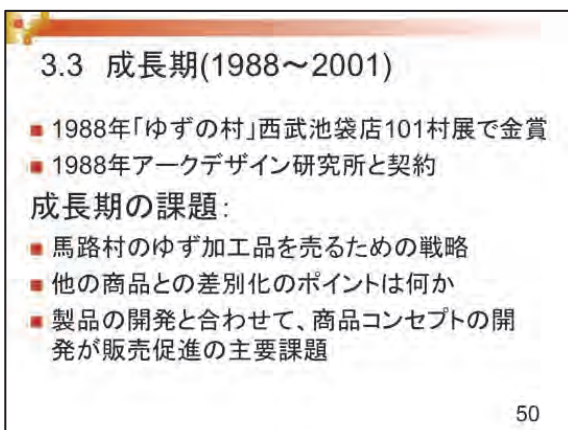
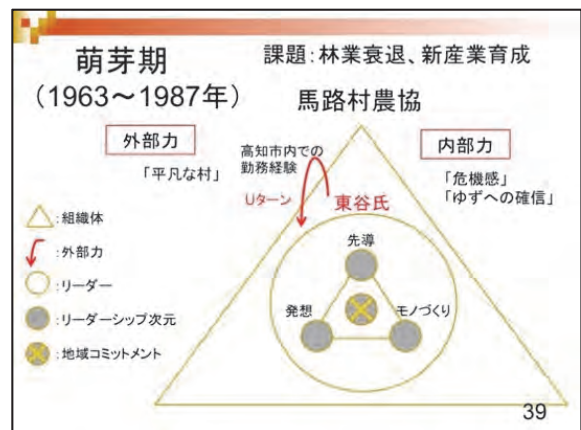
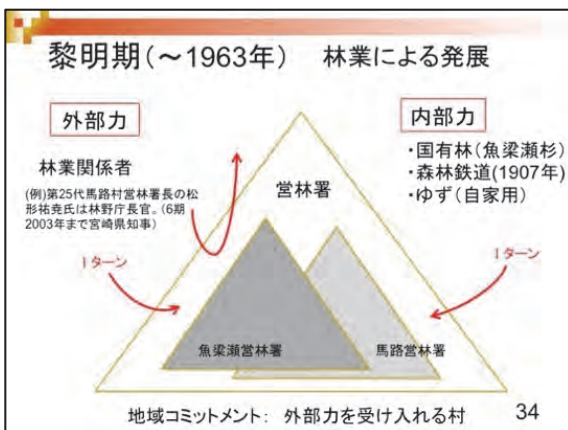
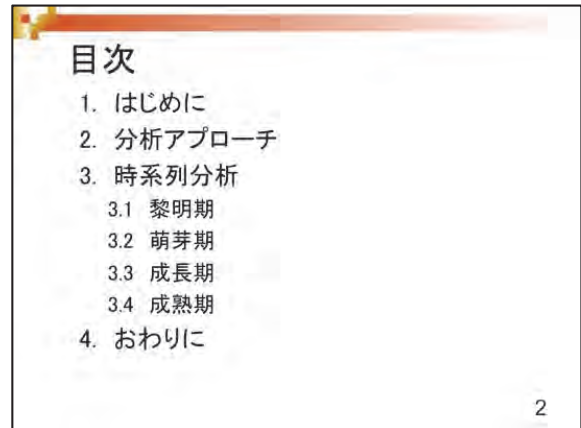


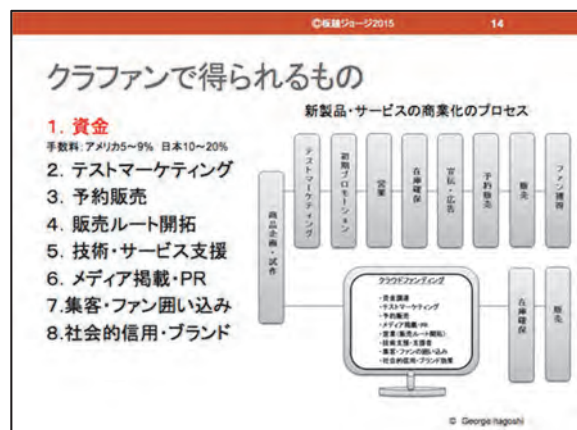
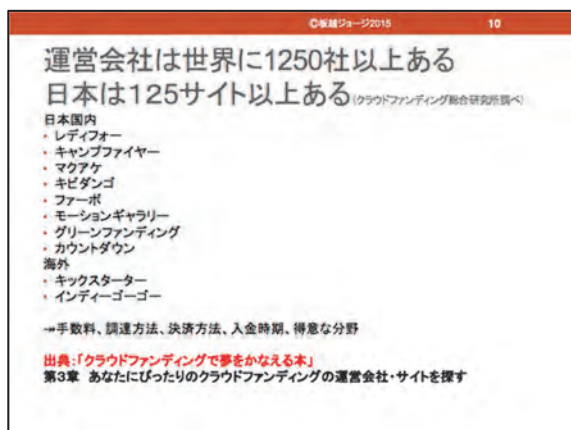
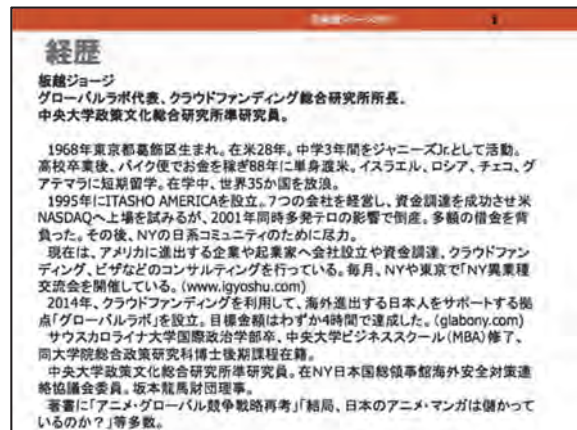
《講演①基調講演》

- 講師：板倉 宏昭 氏(香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授)
- タイトル：「地域発ビジネスの挑戦 ―高知県馬路村の柚子ビジネスの事例―」
- 講演内容：以下、資料抜粋



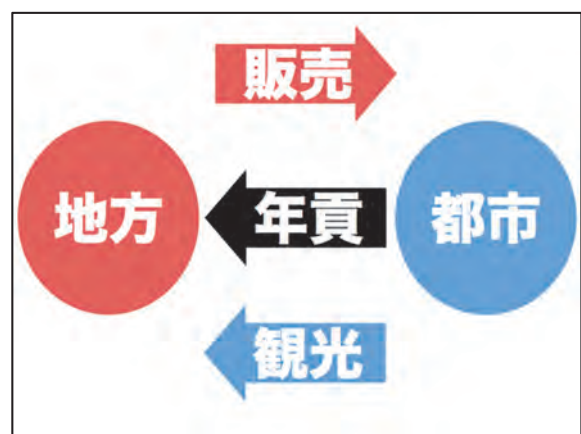
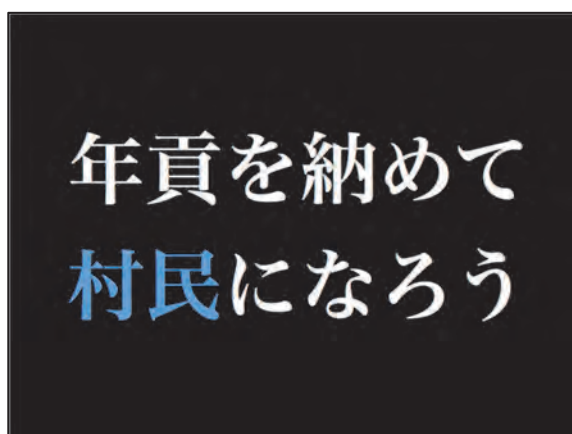
《講演②クラウドファンディング》

- 講師：板越 ジョージ 氏 (Global Labo (NY) CEO)
- タイトル：「日米におけるクラウドファンディング活用と地域活性」
- 講演内容：以下、資料抜粋



《講演③シェアビレッジ》

- 講師：武田 昌大 氏 (kedama inc. 代表取締役)
- タイトル：「シェアビレッジが拓く、新しい田舎の未来」
- 講演内容：以下、資料抜粋



《講演④東北復興》

- 講師：佐藤 一夫 氏 (NTTドコモ東北復興新生支援室 ゼネラルマネージャー)
- タイトル：「NTTドコモの東北復興・新生の取り組み」
- 講演内容：以下、資料抜粋

NTTドコモの 東北復興・新生の取り組み

2016年1月31日
株式会社NTTドコモ
東北復興新生支援室
佐藤 一夫

東北復興専門組織

2011年12月に被災地域の復興活動に迅速に貢献できる事業運営体制を構築するため「東北復興新生支援室」を設立。
メンバーは社内公募で募集し、専門や出身地域が多様で活気に溢れた組織。




加藤社長と東北復興新生支援室のメンバー
『現場思考』で活動を展開

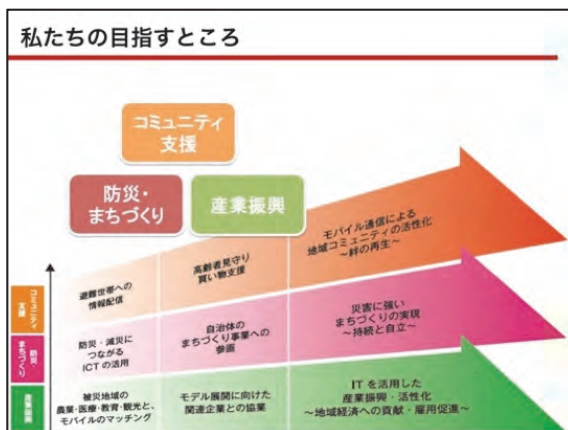
東北復興“新生”支援室

東北復興新生支援室のビジョン

東北の笑顔のために、 人とひと・社会をつなぐ

ミッション

- 地域社会に寄り添い、モバイル・ICTでつなぎながら、東北が笑顔になるサービスを創造します
- 東北で培ったノウハウを活かし、日本社会の課題解決につなげます
- 東北をフィールドにスマートライフのバイオニアを目指し、ドコモのブランド価値向上につなげます



被災地の現状

集中復興期間(ハードの復興)から復興創生期間(自立から地方創生)へソフトを含めた街づくり(生業、賑わい、交流)への対応
福島県では、コミュニティ支援・心のケアが継続的に必要。



震災以降
避難者・避難者が
東北に

※仙台市は日本一避難しやすいまちを目指し、女川では避難者による「まち」の活性化が進む。



避難指示解除H27.9.5～増築町
(出展：福島県HP 網掛け部分)

新たなプレイヤー(よそ者、若者)による
新たな芽(ビジネス)が生まれている。

継続的な
コミュニティ支援、
心のケア

東北復興に向けた主な取り組み

復興から地方創生へ
現地ニーズに応えつつ地域資源のブランド化、販路拡大の支援
及び観光支援による交流人口の拡大に寄与。

産業活性化

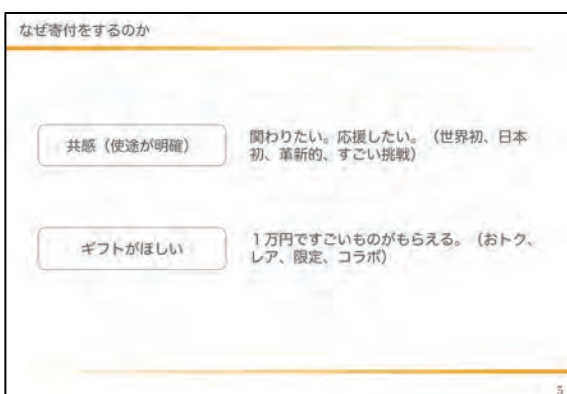
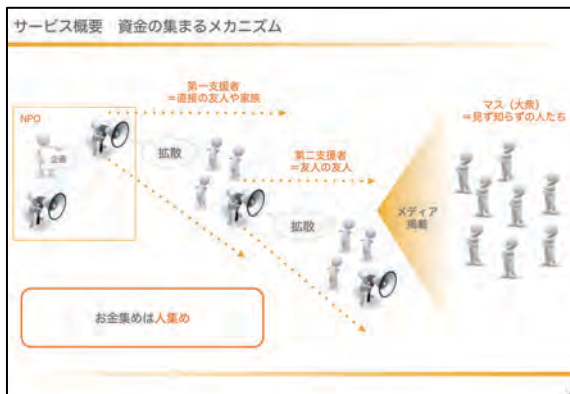
- きずなシステム導入 (福島県双葉町)
- ICTを活用した無人販売所の設置 (宮城県気仙沼市)

被災者支援

- まちのブランディング化『北限のゆず研究会』 (岩手県陸前高田市)
- まちのブランディング化『サメまち気仙沼』 (宮城県気仙沼市)
- まちのブランディング化『未来の種プロジェクト』 (宮城県南三陸町)

《講演⑤ 寄付型クラウドファンディング》

- ・ 講師：佐藤 大吾 氏 (ジャパングビング 代表理事)
- ・ タイトル：「寄付型クラウドファンディングについて」
- ・ 講演内容：以下、資料抜粋



3.7.2 Web 記事

Web 記事は、当事業の情報公開 Web サイトあるいは、広報効果が期待できる Web サイトに当事業に関連する記事を掲載することで、学び直しの機運醸成、学び直しの機会、環境整備に関する情報提供、また当事業の普及等を狙う。平成 27 年度は、事業アーキテクトコースの取材記事並びに起業塾第 2 回、3 回、4 回、5 回の取材記事を Publickey に掲載。

http://www.publickey1.jp/blog/16/1_pr.html



現在の学生数は約200人。しかも社会人学生の割合は後述する情報アーキテクチャ専攻が88%、創造技術専攻が72%であり、社会人が積極的に学ぶ場所となっています。

専攻科目は、企業の経営方針に合った課題解決のソリューションの策定、システムアーキテクチャ、プロジェクトマネジメントなどの能力を備えた情報アーキテクトを育成する「**情報アーキテクチャ専攻**」と、ものづくりスペシャリストとしてインダストリアルデザインやものづくりマネジメントなどを学ぶ「**創造技術専攻**」があり、そして新コースとしてITを活用することで生産性や付加価値を高め、産業分野の加速度的成長を実現できる人材を育成する「**事業アーキテクトコース**」が新設されました。